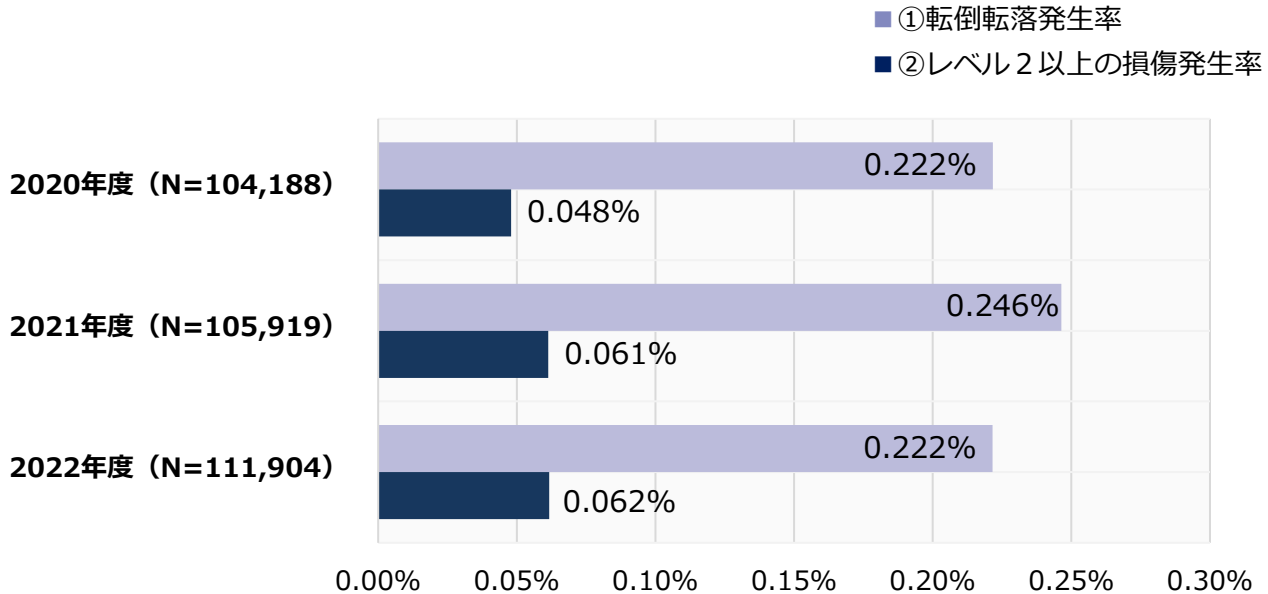


転倒転落による損傷発生率

転倒・転落予防の取り組みが効果的に行えているか評価する指標です。

入院中の転倒転落は慣れた住居と違う環境や、病気そのもの、治療や検査が身体に影響を及ぼすなど様々です。発生した事例の追跡や発生原因の分析から必要な予防策・改善策を導き出すことができ、実践していくことで発生防止につながります。より低い値であることが望ましいとされています。



当院値の定義・算出方法

分子： ① インシデントレポートの転倒転落件数
② インシデントレポートの転倒転落件数のうち損傷レベル2以上の転倒・転落件数
(レベルは日本病院会の定義使用)

×100 (%)

分母： 入院のべ患者数

※グラフ中のN数は分母の値を示しています。

結果の考察と今後の取り組み

- ・入院時全患者に転倒・転落アセスメントを実施し、問題点を抽出し状態に応じた予防策の実施。
- ・転倒転落アセスメントスコアを2022年4月より改定したため、アセスメントスコアと評価が確実に実施できるよう指導を行っていく。
- ・転倒転落アセスメントスコアⅡ以上は看護計画を立案し介入。
- ・入院時患者、家族に「転倒転落防止ビデオ」の視聴、入院時に説明を行い、転倒転落防止対策に協力していただく。
- ・転倒が多いトイレの改修工事と床素材の検討を行う。
- ・他職種チームとの連携を行う。

文責：セーフティマネージャー
高松 麻由美